

第15回 海岸勉強会メモ(案)

日時:平成21年3月17日(火)

19:00~21:00

会場:住吉公民館

[参加者]

- ・一般の方: 22名 (コンサルタント等含む)
- ・行政担当者等: 16名 (宮崎県:河川課・港湾課・危機管理課、中部港湾事務所、国交省:宮崎港湾空港整備事務所・宮崎河川国道事務所、宮崎市:土木課・危機管理室)

【説明内容】

- ・「津波及び津波対策について」
説明者:宮崎県危機管理課 河並伸宣
- ・「ハザードマップについて」
説明者:宮崎河川国道事務所海岸課 杉山光徳

【報告内容】

- ・技術分科会、委員会の開催報告
- ・第1回談義所について

【質疑、意見等】

津波及び津波対策について、ハザードマップについて

◇砂浜や松林に津波抑制効果はあるか

→津波は陸域ではスピードが落ちる。松林は間隙から水は流れるが勢いは弱まる。

◇松林ではなく、マングローブなど根を張る植物の方が津波抑制に効果があるのでは。

◇河川への遡上は、水深があるので津波の進行は早く、人の足では逃げ切れないのではなか

いか。

→津波が来てから逃げるのでは遅い。

◇そんなに速いはずがない。訓練や対策上でも一瞬で何もかもが終わるという想定ではな

いはず。

◇ハザードマップの浸水危険域に防災センター(拠点)があるのはなぜか。

◇津波対策の説明ではとにかく逃げろと言うが、危ないところには住まないという対策は

とれないのか

→土石流危険地域など、危険が差し迫ったところでは規制をかけるが、そうでないところでは、法・制度上、規制を掛けるのは難しい現状がある。(司会)

◇津波の到達を遅らせるような施策をとることはできないのか

◇砂浜に津波抑制の効果があり大切なら、河川担当だけでなく、危機管理の部署も砂浜保全について連携すべきではないか

◇緩衝帯という意味での砂浜、松林をもっと意識してもよいのではないか

技術分科会、委員会について

◇H21年度予算はどうなっているのか

→H21年度は、H20年度並の金額で要求している。内容は試験養浜、調査。新規のものとしては漁業者と協議のうえ波を観測する海象計設置を設置したいと考えている。他の対策については、今後の分科会、談義所等の進み方次第。

◇宮日新聞の記事で、1ヶ所の範囲で0.5～1mの堆積があったと書いてあったが、間違いではないのか。

→マスコミに限らず、事務局はよりわかりやすい(誤解を受けない)説明をしていく必要がある。(司会)

◇石崎浜の養浜について台風がくれば自然と流出するのに重機で押し出すのは無駄ではないか。

◇委員会で小丸川～一ツ瀬川間の海岸線変化が安定していることを参考にしたらどうかとの意見があった。技術分科会からでた議論なのか。

→一ツ瀬川左岸前面に浅瀬があり、その影響により背後が安定するのではという議論があった。(司会)

◇導流堤があるから安定しているというわけではないのか

◇一ツ瀬川の左岸は砂が安定しているということだが、もともと右岸の方が砂の堆積が多かった。それが離岸堤のところへ移動しただけで安定しているわけではない。

◇技術分科会で、佐藤先生が、100年後のベクトルを間違えないために、宮崎港建設前について評価する必要がある、と言っていたのが印象に残っているが、昔のデータを公表していくのか。

→精度の高いデータは存在しないことがあるが、可能な限り検討していくということだと思ふ。(司会)

◇サーファーは定性的にかなりの精度の波浪の監視役になっている。それをきちんとデータで示せるよう、予算を確保していく必要があるのではないか。

◇地盤沈下、ビーチサイクルについては触れていないが今後検討してもらえるのか。地盤沈下は陸域のみで海では観測されにくい、陸と海での砂のやりとりは重要。

→飛砂のことも合わせて、市民連携コーディネーターとして要望した。(司会)

◇養浜に対する住民の話を聞いたが不信感が大きい。養浜だけではなく具体的な対策も進めてほしい。

【次回以降の予定等】

第1回談義所は、平成21年4月25日(土)14:00～ 住吉公民館

- ・これまでに出た意見の提示・確認。談義所としての意見の集約。
- ・談義所の進め方、ルール等について